

故藤澤益夫前学長に捧げる

学長 井上經敏

藤澤益夫前学長が平成16年9月12日に急逝され、私達は「巨星」を失いました。

あまりにも突然の事態でしたが、惟うに、故藤澤前学長の御遺志は、この「人間福祉研究」の着実な継続と、研究の発展、集積を期待するにほかならないのです。

そこで、以下に同年10月21日に行われた大学葬における葬儀委員長（現学長）の御会葬の皆様へのお礼とお願いの御挨拶を掲げ、ここに改めて故藤澤益夫前学長を追悼申し上げますとともに、この「人間福祉研究」への御期待に私達が応えようとしているところを宣明させていただくことといたします。

皆様、本日は、御多用中にもかかわらず、「田園調布学園大学葬 故藤澤益夫学長お別れの会」にご臨席受賜りまして、誠にありがとうございました。

心からお礼申し上げます。

天候の激しい変化の中を、御会葬下さいました皆様のお気持ちに、亡き藤澤学長に代わりまして、深く感謝申し上げます。

藤澤学長は、大変に優れた学者であり、同時に、非常に秀でた教育者でありましたことが広く世に知らされていまして、そのお力の全てを注いで、この田園調布学園大学人間福祉学部を創設し、育ててこられたのでございます。

その創設の経緯と理念などを藤澤学長自らが論じられましたのが、皆様のお手元にお持ち頂きました、「田園調布学園大学葬 故藤澤益夫学長 お別れの会」のリーフレットの中のお写真の下に掲載されております、「揺りかごから墓場まで」でございませう。

この「揺りかごから墓場まで」には、まず、田園調布学園大学を設置経営する学校法人調布学園が、80年もの歴史を積み重ね、学校教育を通じて社会に広めてまいりました「捨我精進」の建学の精神を、大学教育に活かすとの基本方針が明らかにされています。

その上で、社会福祉の道を目指す若人を教え育み有為な人材として社会に送り出そうとの、藤澤学長の教育理想、透徹した社会状況の把握、そして人間愛などが高く掲げられているのです。

申し上げるまでもなく、この文中には、藤澤学長の、田園調布学園大学短期大学部人間文化学科への、強く温かい思いも込められているのでございませう。

ところが、人間福祉学部は未完成で、保育系学科増設の手続きも、道半ばにして、藤澤学長は急逝なさいました。

そこで、私達田園調布学園大学に在る者は、この「揺りかごから墓場まで」を藤澤学長の「ゆいごん」とし、その御遺志に沿い、「捨我精進」の建学の精神を守って努力を重ね、田園調布学園大学を、社会に貢献する大学教育の場に築いていこうと、全員で心をひとつにしたのでございませう。

学生の皆さん、この心で物事を良く考えて勉学に励んで下さい。

教職員の皆さん、この心でそれぞれの力を発揮して田園調布学園大学の建設に邁進してまいりませう。

藤澤益夫学長、田園調布学園大学の、私達のこの心での取り組みを、どうかお見守り下さい。

御来賓の方々には、こうして努力を続けてまいります田園調布学園大学の私達に、是非ともお力をお貸し下さいますようお願い申し上げます。

御会葬下さいました皆様方に、改めて厚くお礼申し上げます。

本日は誠にありがとうございました。